

発達障害

発達障害者支援法では、発達障害を「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、その他これに類する脳機能障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」と定義されています。

原因はわかっていませんが脳機能の障害と考えられ、小さい頃から症状が現れます。

発達障害による困難さは一人ひとり違います。不器用だったりバランスが悪かったり、感覚刺激(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚)に対して過敏だったり鈍感だったりします。

発達障害は個性と障害の境目があいまいで、環境によって個性にも障害にもなります。

その人に合った支援があれば、発達障害があっても十分に力を発揮できる可能性があります。

* 自閉スペクトラム症(ASD)

相互的な対人関係の障害、コミュニケーションの障害、興味や行動の偏り(こだわり)の3つが特徴です。

人口約100人に対して1~2人の出現率で、女性より男性が多いと言われています。

これまでの自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害などが含まれます。

コミュニケーションおよび対人関係の障害

人の気持ちを理解するのが苦手、冗談や比喩が理解できない、興味のあることを一方的に話し続けてしまう、非言語的なサイン(表情・目配せなど)を読み取るのが困難、など。

活動や興味・関心の偏り

日課・習慣の変化や予定の変更に弱い、特定の物事に強いこだわりがあるなど。

その他の特性

聴覚・視覚・触覚など感覚の過敏性を伴うこともある。

環境次第で障害にも個性にもなるのが発達障害です。個性と障害の境目はあいまいです。

その人に「困ったこと」がなければ、どんなに特徴があったとしても、障害と考える必要はありません。発達障害は「その人自身」を理解することが大切です。



* 学習障害(LD)

知的な能力そのものに大きなつまずきがないのに、特定の能力に著しい障害があります。

- ・聞いたことの理解が難しい
- ・話したいことが、言葉でうまく表現できない
- ・文字を書くことが苦手である
- ・繰り上がり、繰り下りの計算ができない
- ・図形や文章問題の理解が苦手

スペクトラムとは「連続体」の意味です。

特に読み書きに困難があることを「ディスレクシア」と呼びます。

* 注意欠如・多動症(AD/HD)

注意持続の欠如もしくは、その子どもの年齢や発達レベルに見合わない多動性や衝動性、あるいはその両方が特徴です。

次の症状が、通常7歳以前に現れます。

おしゃべりが止まらなかつたり、待つことが苦手でウロウロしたりする
約束や決まり事を守れないことや、せっかちでイライラしてしまうことがよくある
うっかりして同じ間違いを繰り返してしまうことがある

多動性

衝動性

注意力散漫・不注意

混合タイプ

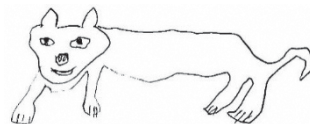
不注意、多動性、衝動性のいずれも持っています。

注意力散漫・不注意タイプ

不注意の特徴が目立ち、周囲から気づかれにくいタイプ。女の子に多い。

多動・衝動性タイプ

小学校低学年に多く、成長して混合型に移行する場合があります。



* 周囲の対応

- ・できたことをほめる、できないことを叱らない
- ・言葉だけでなく視覚的に伝えることで理解しやすくなる
- ・伝えたいことは短い文で、順を追って、具体的に説明する
- ・本人が安心できる環境を整える
- ・善悪やルールをきちんと伝える
- ・自分で選択し、自分で決定する機会をつくる

発達障害の家族同士の
交流の場
詳細は54ページへ

所沢市ホームページ
発達障害



* 気づきのポイント

日常生活や学校などで「あれっ?」と思ったときに、「もしかしたら発達障害かも」と考えることは大切です。

一方で、ただ発達障害だと決めつけて終わる(何も対応をしない)ことや、発達障害だから仕方ないとあきらめる(放置する)ことでは意味がありません。大切なのは「特性を理解する」「対応を工夫する」「支援につなげる」ことです。

乳幼児期の様子

- ・抱っこすると反り返る、抱っこを嫌がる
- ・睡眠時間が短い、布団や床に寝かすと泣き出す
- ・視線で親を追わない、親の後追いをしない
- ・反対に、人見知りが激しく後追いが激しい
- ・視線が合わない、名前を呼んでも振り向かない
- ・あやす、「いいいいいいいばー」をしても笑わない
- ・指さしをしない、親が指さす方向を見ない
- ・要求があるとき、人の手を持って指さしや、欲しいものを取りとうとする(クレーン現象)
- ・バイバイをするときに手の向きが逆(逆さバイバイ)
- ・言葉が出てオウム返しになり、「ただいま」「おかえり」のような役割が違ふ言葉を逆転して使う
- ・文字・数字・商標などが好きでよく覚えている
- ・ごっこ遊びをしない
- ・くるくる回るものが好き、おもちゃを並べて遊ぶ

思春期の様子

- ・興味のあることには精通しているが一般常識には疎い
- ・進学、就職について関心が薄い
- ・本音と建前の使い分けが苦手
- ・先輩後輩の上下関係、男女の距離の取り方が分からない
- ・曖昧な状況に長期間置かれることが苦手

学童期の様子

- ・話は上手で難しいことを知っているが一方向的に話す
- ・話を聞かないといけな場面でも聞いていない
- ・相手にとって失礼なことや傷つくことを言う
- ・動きすぎる、しゃべりすぎる・落ち着きがない、集中力がない
- ・いつもぼんやりしている
- ・1つのことに集中すると話しかけても聞いていない
- ・急な予定変更を不安がったり混乱したりする
- ・大人すぎる、常に受動的・1人遊びが多い・極端な怖がり
- ・忘れ物が多い、毎日の支度や後片付けができない
- ・大人や年上、年下の子とは遊べるが、同級生とは遊べない
- ・頭の回転が速いのと比べて作業のスピードがゆっくり
- ・一度感情が高まるとなかなか興奮が収まらない
- ・ささいなことでも注意されるとかっとなる

職場での様子

- ・一度に複数の説明や指示を出されると混乱する
- ・電話を受けながらメモを取るなど、同時に複数の作業が苦手
- ・切り貼り、カウント、たたみ作業などの単純作業が苦手
- ・業務上の急な変更に対応することが苦手
- ・マニュアルや指示書を読むことが苦手
- ・報告、連絡、相談がうまくできない
- ・対応が上手くできない、急かされるとパニックになる
- ・わからないことを人に聞くことが苦手
- ・休憩時間の過ごし方がわからない
- ・社内の人と社外の人の接し方の使い分けが苦手

* その人に合った支援を見つける

児童(小児)精神科

子どもの心の発達や、心配な症状に対応しています。障害の診断や家族の対応など継続的に相談出来ますが、医療機関が少なく、新規の予約が取りにくい状況です。

かかりつけの小児科

児童精神科の予約に紹介状が必要な場合や、本人が精神科の受診を嫌がる場合など、まずは小児科で相談する方法もあります。

発達障害を専門とする心療内科・精神科

「大人の発達障害」の専門外来を行っています。診断など専門的な対応が期待できますが、医療機関が少なく、予約が取りにくい状況です。

一般の心療内科・精神科

おおむね18歳以上で、不眠やうつ状態などがある場合や、「もしかしたら発達障害かも」と思ったときに受診することができます。カウンセラーがいる医療機関では心理検査が可能です。

家族会

家族同士の交流による支えあいや、家族目線の情報を得ることができます。

所沢市役所 こども福祉課

18歳未満の療育手帳の申請、サポート手帳の交付、児童発達支援(就学前)・放課後等デイサービス(小中高)などの障害児通所支援を利用するための窓口です。

☎ 04-2998-9223

所沢市立教育センター

年長児から18歳までの子どもと、その保護者等を対象として、学校生活の悩みなどを相談することができます。

☎ 04-2924-3333

こども支援センター発達支援エリア「マーガレット」

18歳未満の発達障害またはその特性のある子どもと、家族を支援する施設です。泉町 1861-1 こどもと福祉の未来館 2階

☎ 04-2922-2118

所沢市保健センター こころの健康支援室

おおむね18歳以上の人の精神保健福祉の相談窓口です。精神障害者保健福祉手帳を持つ人や、精神科に通院している人等の福祉サービスの窓口です。

☎ 04-2991-1812

所沢市役所 障害福祉課

身体障害者手帳や療育手帳を持つ18歳以上の人の相談と福祉サービスの窓口です。

☎ 04-2998-9116